

社会資本総合整備計画『持続可能な下水道事業の推進（防災・安全）（その2）』の中間評価

●委員

大雨を道路下の暗渠で流しているということを再認識させていただいた。それらをロボットを使って調査し修繕等しているということで、大変有り難いと感じた。

守山栗東雨水幹線の工事について、他工事との施工調整により遅れているとのことだが、工事は別々にやるより、調整して一緒にやってもらった方が住民としてはありがたい。他部局と連携して工事の期間を短縮化してやっていただきたいと思う。全体として、計画に基づいてかなり達成できているのありがたい。

●委員

守山栗東雨水幹線の整備効果について、10年確率、50年確率とあるが、計画そのものはどういう確率での計画だったのか？

●下水道課

守山栗東雨水幹線の計画は10年確率で整備をしている。

●委員

それではすぐに被害が出てしまうのではないか。温暖化の影響もあり、50年確率や100年確率の豪雨もありうると思うが、10年確率で問題なかったのか？

●下水道課

本事業で整備している雨水幹線の排出先は最終的に河川である。その受け手の河川が10年確率で整備されており、それ以上の雨を流しても放流先の川が溢れてしまう。今回の放流先である新守山川の整備の確率年に合わせて、本事業も10年確率で整備を進めている。10年確率を超える雨水に対しては、市町と連携してハザードマップ作成や住民への周知等のソフト対策をおこなっていく。

●委員

全県的に見てこの地域だけが氾濫が起きやすかったのか？

●下水道課

ここだけが特段にということはない。ここが複数市にまたがることや河川の計画等の関係、市からの要望もあり流域で整備をする事業採択をした。県の下水道事業で雨水対策を実施しているのはここだけである。

●**委員長**

守山栗東雨水幹線は、長いプロジェクトとして進めてきたのか？何年確率というところにもかかわって来るので説明をお願いします。

●**下水道課**

平成 14 年に工事を開始しているが、はじめに下流の守山市域から整備を始め、平成 21 年度に一部供用を開始した。現在、栗東市域に整備を進めているが、工事用地の関係で進捗に空白があり、平成 29 年度から工事が再開した。

●**委員長**

平成 14 年工事着手ということで、だいぶ前からの計画になるので、最近の豪雨については即応がし難い。まずは整備中の幹線を完成させてからだということか？

●**下水道課**

その通りである。

●**委員**

工事の終わったところは供用を開始しているということ？であれば、守山地区では、既に整備効果が出ているということですね？

●**下水道課**

特に守山駅周辺をはじめ、市域での浸水が解消されたと聞いている。

●**委員**

P. 29 の改築進捗率について。改築は今後も続いていくと思うが、本計画で 100%を達成した後はどうするのか？

●**下水道課**

ストマネ計画で 5 か年計画を立てており、その対象の施設数を目標として設定している。その後は次期ストマネ計画を立てて、次期整備計画の目標数値とし、順次改築事業を進めていく。

●**委員**

C02 の排出量はどのような性質のものか？下水道事業に関する C02 の排出に限定した数字か？

●**下水道課**

下水処理場は、汚れた水をきれいにするということで多くのエネルギー（電気や重油など）を使う。これが温室効果ガスに換算される。エネルギーの使用量が温室効果ガスの排出量と相関する。

下水道事業に関する CO2 の排出に限定した数字である。下水の処理場の事業過程で出てくる温暖化排出ガスの低減を目標としている。

●**委員**

算出過程は？

●**下水道課**

省エネ法においても報告している数値であり、エネルギー由来の電気や軽油・重油の年間使用量に CO2 換算の排出係数をかけて算出している。

●**委員**

算出方法・過程についても、できれば今後スライドに掲載して欲しい。

処理場エリアは洪水浸水想定区域において被害想定はないか？

●**下水道課**

4 処理場のうち、浸水の想定がない処理場もあるが浸水する処理場もある。適用している浸水想定は当県の流域政策局で策定している地先の安全度マップ等を利用しており、3～5メートルまで浸水するというわけではないものの浸水想定がある。国の指導も出ており、耐水化対策に別途取り組むところである。

さきほどの地先の安全度マップは 10 年、100 年、200 年確率で浸水想定されており、下水道事業としては 100 年確率の対策を検討予定としている。

●**委員**

P.24 のバイオマス利活用について、これは汚泥の再利用の取り組みだと思う。昔、見学した彦根の処理場では汚泥を灰にした後、灰を固めて砂利にして道路整備に使用していたと聞いている。この方法では、活用できる形態にするまでにエネルギーがいるので、汚泥を大きなエネルギーをかけずに肥料にし、それを畑にまく。このエネルギーの削減が温室効果ガス削減の目標に含まれるという理解でよいのか？

●**下水道課**

その通りである。

●委員

バイオマス事業で肥料の有効性が示されたら、農地の関係の方にも、肥料が安価に手に入ることになり、農産業にも影響があると思う。捨てることがない琵琶湖、捨てることがない滋賀県ということで、ぜひバイオマス利活用の事業を進めていただきたい。

以上